

一般

段級

はべりいといつぞや  
 聞え給ふ。其跡みじ  
 と。雲岸寺に杖を曳けば、人々進んで共に  
 いぢなひ、若き人多く道の程打ち騒ぎて

*軽く止める*  
*軽く止まると右折*

〔奥の細道〕  
 おっしゃっていたことがある。その歌を書いた跡を見ようと、杖をつけて雲巖寺に  
 まで出かけたが、人々が一緒に行くかと誘い合い、若い人も多くて賑やかに道を  
 進んでいた

